

臨時農業生産情報

(高温に対する技術対策)

平成 22 年 8 月 2 日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

仙台管区気象台が7月30日に発表した「高温に関する異常天候早期警戒情報(東北地方)」によると、8月4日頃からの1週間、気温が平年よりかなり高くなる見込みとなっています。

このため、次の事項に留意し、農作物の栽培管理に万全を期してください。

1 水 稲

県内の出穂が平年に比べて早まっています。今後の気象情報に十分注意し、次の点に留意して、高温による被害の防止と軽減及び病害虫の適期防除に努めてください。

- (1) 登熟期前半(出穂後20日間)の高温により、どうわ 胴割れ米や にゅうはくまい 乳白米の発生が懸念されるので、その期間は水の入れ換えや可能であればかけ流しを行い、水温・地温の低下を図る。

なお、今後も高温が続くと予想されていることから、早期落水による品質低下を防ぐため、湿田では出穂後20～25日、乾田では出穂後30～35日を目安に落水する。

- (2) 斑点米カメムシ類の発生盛期は、気温の高い日が続いているため、平年よりやや早く、また、発生量は津軽地域が平年並み、県南地域は多いと予想されることから、使用する薬剤の施用時期に応じて、適期防除を徹底する。

なお、出穂期前後の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田に追い立てることになるので行わない。

- (3) 穂いもちの発生量は平年並みと予想されるが、降水量が平年並みから多い見込みであることから、防除適期を逃さないようにする。

2 野菜・花き(施設栽培)

- (1) 施設栽培では、換気など温度管理の徹底を図るほか、かん水は、少量・多回数にするなどして十分に行う。

- (2) ハダニなどの害虫が発生しやすいため、早期発見・早期防除に努める。

3 畜産

- (1) 畜舎の防暑対策

ア 西日や隣接する建物からの反射熱の侵入を防止するため、日除けを設けたり畜舎の屋根や畜舎内に散水・放水する等により舎内温度を下げる。

イ 窓を開放したり換気扇・送風機などを利用して、舎内の換気を良くする。

(2) 家畜の飼養管理

- ア 朝、夕の涼しい時に飼料を給与する。また、給与回数を増やし乾物摂取量をも高める。
- イ 過密飼育を避け、ストレスの軽減を図る。
- ウ 新鮮な冷水を常に飲めるようにする。
- エ 特に、乳用牛では乳量や乳脂肪率が下がる傾向にあるので、栄養価が高く、嗜好性の良い一番牧草などを給与するとともに、ビタミンやミネラル等も不足しないよう補給する。また、種雄豚は造精機能が低下するので、交配は涼しい時を選び、供用は週2回程度とする。

(3) 放牧牛の管理

- ア 放牧は、木陰のある牧区を使うか、できるだけ涼しい時間帯に行く。
- イ 新鮮な冷水を常に飲めるようにするとともに、栄養価が高く、嗜好性が良い飼料やミネラルを与える。
- ウ 行動をよく観察し、異常牛の早期発見・早期治療に努める。

4 農作業（熱中症の予防）

- (1) 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにとる。
- (2) 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する。



報道機関用提供資料	
担当課 担当者	農産園芸課 稲作振興グループ 舘山主幹 野菜・畑作物振興グループ 原主幹 畜産課 経営支援グループ 梶田技師
電話番号	直通 017- 734- 9481 内線 3460
報道監	農林水産部 小山内農商工連携推進監（次長） 内線 3181

【おしらせ】

青森県では、臨時農業生産情報をパソコンや携帯電話にメール配信するサービスを実施しています。青森県農業情報のホームページ「アップルネット」からお申し込み下さい。